

聖餐式

マタイの福音書 13:24-30, 36-43, 47-52

「さばきは終わりの日に」

13:24 イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は、こういう人にたとえることができます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。

13:25 ところが、人々の眠っている間に、彼の敵が来て麦の中に毒麦を蒔いて行った。

13:26 麦が芽ばえ、やがて実ったとき、毒麦も現れた。

13:27 それで、その家の主人のしもべたちが来て言った。『ご主人。畑には良い麦を蒔かれたのではありませんか。どうして毒麦が出たのでしょうか。』

13:28 主人は言った。『敵のやったことです。』すると、しもべたちは言った。『では、私たちが行ってそれを抜き集めましょうか。』

13:29 だが、主人は言った。『いやいや。毒麦を抜き集めるうちに、麦もいっしょに抜き取るかもしれない。』

13:30 だから、収穫まで、両方とも育つままにしておきなさい。収穫の時期になったら、私は刈る人たちに、まず、毒麦を集め、焼くために束にしなさい。麦のほうは、集めて私の倉に納めなさい、と言いましょ。』

13:36 それから、イエスは群衆と別れて家に入られた。すると、弟子たちがみもとに来て、「畑の毒麦のたとえを説明してください」と言った。

13:37 イエスは答えてこう言われた。「良い種を蒔く者は人の子です。

13:38 畑はこの世界のこと、良い種とは御国の子どもたち、毒麦とは悪い者の子どもたちのことです。

13:39 毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫とはこの世の終わりのことです。そして、刈り手とは御使いたちのことです。

13:40 ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、この世の終わりにもそのようになります。

13:41 人の子はその御使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与える者や不法を行う者たちをみな、御国から取り集めて、

13:42 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ざりしりするのです。

13:43 そのとき、正しい者たちは、彼らの父の御国で太陽のように輝きます。耳のある者は聞きなさい。

13:47 また、天の御国は、海におろしてあらゆる種類の魚を集める地引き網のようなものです。

13:48 網がいっぱいになると岸に引き上げ、すわり込んで、良いものは器に入れ、悪いものは捨てるのです。

13:49 この世の終わりにもそのようになります。御使いたちが来て、正しい者の中から悪い者をえり分け、

13:50 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ざりしりするのです。

13:51 あなたがたは、これらのことがみなわかりましたか。」彼らは「はい」とイエスに言った。

13:52 そこで、イエスは言われた。「だから、天の御国の弟子となった学者はみな、自分の倉から新しい物でも古い物でも取り出す一家の主人のようなものです。」

はじめに

私たちは毎月、マタイの福音書に記された五大説教を聖餐式の前に学んでいます。

先月から、マタイ 13:52 に記された3つめの説教に入りました。

この個所で、イエスはすべてたとえ話で教えられます。

先月は、たとえ話の簡単な定義として、天国について教える身近な地上の話だと学びました。そして、深い霊的真理を教えてくれるので、たとえ話は大切であると学びました。

たとえ話は、ひとつの基礎的な要点を伝えるためのものです。

その要点を見落とすと、たとえ話の目的を見落とすことになります。

先月は、「種をまく人」のたとえを学びました。その話は、クリスチャンの成長が神のみことばに対する心の状態に左右されると教えてくれました。

今月は、「麦と毒麦」のたとえと「地引網」のたとえを学びます。「地引網」のたとえも一緒に今日学ぶことにしたのは、「麦と毒麦」のたとえと同じ真理を教えているからです。

先月の「種をまく人」のたとえでは、私たちの心が神の御前に正しければ、聖書に記された神のみことばが、私たちのクリスチャン生活の中で成長をもたらすはずだと学びました。私たちの心が神の御前に正しくなければ、神のみことばが成長をもたらすことはできません。ですから、信徒の霊的成長には、心の状態がなによりも大切です。イエスは屋外におられ、畑と魚を用いて教えられました。ふたつめのたとえでも、イエスはまだ田舎の屋外におられ、今度は麦畑を例にとって教えられます。また、地引網のたとえでは、魚を例にとられます。おもに、このふたつのたとえは、終わりの日のさばきについて警告する内容です。さばきは、教えるのも習うのも簡単ではありません。神のさばきがくだると、もう神の恵みを受ける機会はなく、救いを求めてやり直すチャンスはありません。それは、ルカ 16:19-31 に記された金持ちとラザロの話からわかります。

ルカ 16 : 19-31

16:19 ある金持ちがいた。いつも紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。
16:20 ところが、その門前にラザロという全身おどきの貧しい人が寝ていて、
16:21 金持ちの食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬もやって来ては、彼のおどきをなめていた。
16:22 さて、この貧しい人は死んで、御使いたちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。
16:23 その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふところにラザロが見えた。
16:24 彼は叫んで言った。『父アブラハムさま。私をあわれんでください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこしてください。私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。』
16:25 アブラハムは言った。『子よ。思い出してみなさい。おまえは生きている間、良い物を受け、ラザロは生きている間、悪い物を受けていました。しかし、今ここで彼は慰められ、おまえは苦しみもだえているのです。』
16:26 そればかりでなく、私たちとおまえたちの間には、大きな淵があります。ここからそちらへ渡ろうとしても、渡れないし、そこからこちらへ越えて来ることもできないのです。』
16:27 彼は言った。『父よ。ではお願いします。ラザロを私の父の家に送ってください。』
16:28 私には兄弟が五人ありますが、彼らまでこんな苦しみの場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』
16:29 しかしアブラハムは言った。『彼らには、モーセと預言者がいます。その言うことを聞くべきです。』
16:30 彼は言った。『いいえ、父アブラハム。もし、だれかが死んだ者の中から彼らのところに行ってやったら、彼らは悔い改めるに違いありません。』
16:31 アブラハムは彼に言った。『もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』』

では、「麦と毒麦」のたとえとイエスの解き明かしから学びましょう。

1. このたとえ話の背景。(24 節)

イエスは、天の御国がどのようなところかを教えておられました。神にはご自身の国があり、そこに入る資格はとても具体的です。神の御国に入るには、イエスをとおしてでなければ入れません。これは、使徒の働きの説教でも学びました。この世にはふたつの国しかないという前提で、このたとえを捉える必要があります。ふたつの国とは、神の御国とサタン国です。今、私たちは自分が神の御国に属していて、サタンに捕えられてもサタン国に属してもいないことを確認する必要があります。

2. たとえ話の内容 (24-30 節)

内容はいたってシンプルです。ある人が自分の畑に良い種をまいた、とイエスは言われます。けれども、眠っている間にこの人の敵が来て、麦畑に毒麦をまきました。毒麦は、麦によく似た雑草です。収穫間近になってやっと、麦と毒麦は見分けがつくようになります。

麦が成長して実ると、麦と同じように毒麦も姿を現しました。

当時、これは農家の人たちの間に実際に起こる問題でした。よその農家の人に何か悪いことをされたときに、報復としてこのようなことをするのは、こういうことをしてはいけないという律法まで実際にありました。

しもべたちは、麦の中に毒麦が出てきたのを見て驚きました。

麦をまいたはずなのに、どこから雑草が出てきたのか、理解に苦しみました。

畑の主人は、敵の仕業だと言いました。

しもべたちは、畑に行き雑草を抜こうと申し出ました。

けれども主人は、雑草を抜こうとして麦まで抜いてしまうかもしれないので、そうしないようにと言いつけました。そんなことになれば、麦の収穫が台無しになるからです。

主人はしもべたちに、毒麦をそのまま収穫のときまで放っておくようにと指示しました。

そして、収穫の時には、刈り取る人たちに、雑草をまず刈って束にして焼くように言いつけると言いました。

その後、麦を集めて倉に入れるのです。

とても簡単なお話です。

では、このたとえについてイエスが説明された個所を見ていきましょう。

「麦と毒麦」のたとえの解き明かし。(36-43節)

まず書かれているのは、イエスが群衆たちと別れてから弟子たちに説明されたことです。

説明されたのは、弟子たちと家の中におられたときでした。

イエスの説明は非常に明確です。その要点をひとつひとつ見てみましょう。

1. 良い種をまくのは人の子です。つまり、イエスです。
イエスのみことばをとおして、イエスのみことばを信じることによって、神の御国に入ることが出来ます。
2. 畑はこの世です。これはとても大切です。畑を教会と解釈する聖書教師もいるからです。けれどもイエスは、畑はこの世界のことだとはっきり言われました。後ほどの適用で、これが重要になってきます。
3. 麦となった良い種は、御国の子どもたちです。つまり、神の子たちです。
4. 毒麦は悪い者の子どもたちです。つまり、神の御国に敵対する人たちです。彼らは知るか知らず、サタンの国の働きに加担しています。
5. 毒麦をまいた敵は、悪魔、サタンです。
6. 収穫は、この世の終わりです。神のさばきが生きている人すべてにくだされるときです。主の日と呼ばれることもあります。
7. 刈り手は、イエスに遣わされた御使いです。彼らは、御国に属する者を集め、属さない人々を火の炉へ投げ込みます。投げ込まれた者はそこで泣いて歯ぎしりします。

たとえと説明を紹介しました。今日のメッセージを終える前に、地引網のたとえも読みましょう。このたとえから学ぶ真理は、麦と毒麦のたとえから学ぶ真理とまったく同じです。

マタイ 13 : 47-52

13:47 また、天の御国は、海におろしてあらゆる種類の魚を集める地引き網のようなものです。

13:48 網がいっぱいになると岸に引き上げ、すわり込んで、良いものは器に入れ、悪いものは捨てるのです。

13:49 この世の終わりにもそのようになります。御使いたちが来て、正しい者の中から悪い者をえり分け、

13:50 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ぎしりするのです。

13:51 あなたがたは、これらのことがみなわかりましたか。」彼らは「はい」とイエスに言った。

13:52 そこで、イエスは言われた。「だから、天の御国の弟子となった学者はみな、自分の倉から新しい物でも古い物でも取り出す一家の主人のようなものです。」

適用と呼びかけ

すでにお話したように、たとえには主旨がひとつだけあります。それ以外の要点は主旨に導くものであって、主旨はひとつです。

このたとえの主旨は、将来、「さばきの日」がやってくるということです。

このさばきの日に、神は誰が御国に入れて、誰が永遠に地獄に投げ込まれるのかお決めになります。

ですから、私たちは神の恵みを今、イエスをとおして受け取らなくてはなりません。さばきの日には、神の恵みを得る希望はもうないからです。

ヘブル9:27

9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

ある賛美歌をご紹介します。私が歌が上手であれば、皆さんに歌ってお聞かせしたいのですが、代わりに歌詞をお読みします。昔の賛美歌ですが、心のこもった深い歌詞です。

この歌が皆さんの心に届くことを願います。

1. キリストよ、あなたのうちに私のたましいは見いだしました
ただ、あなたのみ
ずっと求めていた平安と喜びを
今まで知らなかった幸福を

(くりかえし)

今、キリスト以外に満たしてくれるものはない
他の名にはない
愛と命といつまでも続く喜びを
主イエスよ、あなたのうちに見いだしました

2. 安息と幸せを求めてため息し
あなたではなく、幸せを求めた
けれども、救い主を見過ごす私を
主の愛はつかまえてくださった
3. 主よ、壊れた水ためを私も作りました
けれども、水はもれるばかり
飲もうとかがむ私の前で、水は流れ出す
泣いて悲しむ私をあざけるように
4. 楽しみを無くして悲しむ私は
あなたのために泣くことはなかった
恵みによって目が開かれ
あなたの愛を見るまでは

(くりかえし)

今、キリスト以外に満たしてくれるものはない
他の名にはない
愛と命といつまでも続く喜びを
主イエスよ、あなたのうちに見いだしました

まだイエスと出会っていないなら、探し続けてください。求め続けてください。イエスは遠くにおられるではありません。あなたがイエスに心をささげるのを、待っておられます。